

乙川流域における上下流連携の促進

Promotion of Upstream and Downstream Linkage in the River Basin of Oto River

まちづくり・防災グループ 研究員 佐伯 博人
技術参与 土屋 信行

1. はじめに

矢作川水系乙川下流域では、かわまちづくり支援制度の登録により岡崎城下及び市街地の乙川リバーフロント(RF)地区の整備・活用が進められている。また岡崎市が独自に策定した水環境創造プラン(H23)が平成28年度に水循環基本計画としての認定を受け、水源林としての森林保全を行う市民参加の活動や啓発事業が展開されている。

今後乙川のかわまちづくりが、上・下流域が連携する流域連携、行政と市民等による官民連携によって流域全体の活性化に資する「流域連携プラン」へと拡大することの可能性について調査研究を行った。

2. 岡崎市乙川下流域のかわまちづくりの状況

岡崎城下の乙川RF地区の河川区域は、平成27年11月に「都市・地域再生等利用区域」に指定され、かわまちづくり活動が展開されており、「おとがワ!活用実行委員会」が運営・広報の中心となり、各種のイベントや民間団体による活動の調整を行っている。

「泰平の祈り」事業

乙川の水面にLED発光体を流す「泰平の祈り」事業は、平成27年度から3回目の平成29年度は行政主導から地元商工会議所が中心となり運営され、地元企業の後援・参画による盛り上がりで実施されている。



図 - 1 地元団体・企業等が協力する取組事例

人道橋の建設状況および河川敷の活用等

かわまちづくりの登録を踏まえて社会資本総合交付金の適用事業として進められている人道橋の建設は、

3 本目の橋脚や兩岸の橋梁取付部の工事が終了して次の非出水期から上部工が建設される。人道橋は木装とし、指定された歴まち地域に融和することで計画・設計されており、そのための木材は上流側の市有林等の伐採木の準備が進められている。その伐採について住民参加での取組みも行われており、合併により岡崎市に編入された旧額田町地域との上下流交流も目指されている。



写真 - 1 人道橋の建設状況

乙川堤防への仮施設設置による事業活動の試行
乙川殿橋取付部の堤外地では、占用・設置された仮施設を使った民間事業者による営業活動が行われており、さらに堤内地側の堤防裏法にも地元産材等を活用したテラスの設置・利用が試行されている。



図 - 2 堤防(乙川右岸殿橋付近)裏法の活用事例

3. 乙川上流域での活動事例

岡崎市の重要な水源地である乙川の上流域は森林保全活動や人工林の間伐作業の促進に、NPO等の民間団体が積極的な活動を行っており、乙川の上流と下流の流域連携や官民連携のより活発な関係性の推進が期待できる。

人工林の天然林化への取組み

岡崎市内の製材会社を中心となるNPO団体(アースワーカーエナジー)が地元信用組合等地元企業の協力のもと、地元の種子からの苗を使用して針葉樹の人工林を広葉樹に転換する活動を民間主体で進めている。



図 - 3 NPO主導による広葉樹林化活動 (NPO ア-ス-カ-エ-ジ - <http://ewe.org/>)

人工林間伐促進活動への民間の取組み等
人工林の間伐促進のための「木の駅プロジェクト」活動が実施されており、きこり養成講座等の体験者で組織された団体による活動も行われており、配布される地域通貨などを下流側のイベント等でも利用できれば上下流交流の促進にも効果が期待できる。



図 - 4 間伐体験イベントや間伐事業化の取組み

4. 流域連携プランの概要

乙川の上流域および下流域での活動状況等を踏まえて、岡崎市の水源地としての乙川流域全体の連携と活性化へのソフト的な取組みについて、現地での活動への参加・ヒアリング等を踏まえて提案を行った。

4 - 1 上下流の流域連携

上流と下流の交流（流域連携）によって流域全体の魅力を向上し、流域の内部経済循環を高め、その結果として乙川流域をひとつの地域ブランドとしてつくり上げていくことが重要である。

そのためには水源地としての上流域の自然環境の適切な管理や森林機能の保全をしつつ、上流と下流の人々が連携して上手に活用することで、流域全体として魅力ある地域の形成を目指すことが需要である。

具体的な目標として以下の4項目をあげてみた。

- ・水源地の森林保全と活用
- ・川や貯水池の水質の保全と活用
- ・地域固有文化の保全・伝承と地域資源としての活用
- ・交流人口の増加

基本的な取組みについての考え方を示したのが次図である。

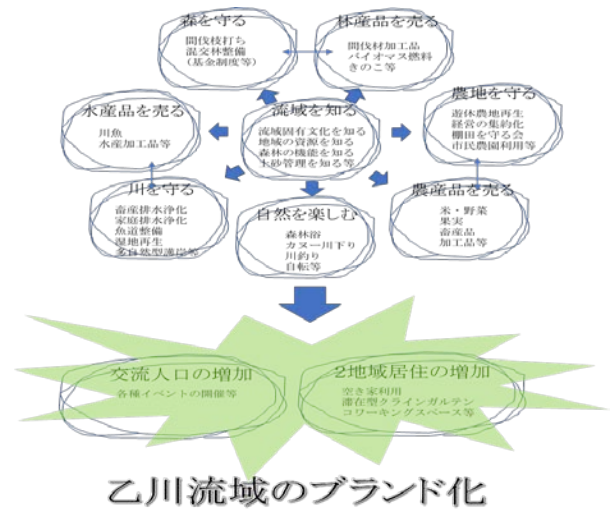


図 - 5 乙川流域連携の基本的な考え方

4 - 2 上下流連携の主要プロジェクト

乙川流域の現状を踏まえて、流域連携を実現するための具体的な取組み（プロジェクト）を提案した。

乙川流域の農林水産品開発（乙川ブランド化）

- ・秘境の名水デリバリーサービス
- ・木を燃やそう！薪デリバリーサービス
- ・間伐材の製品開発と販売促進

流域資源を使ったアクティビティと仕事開発

- ・森で働くぞ
- ・エコツアー・ヘルスツアープログラムの開発
- ・水辺の遊びメニュー開発（筏下り、木製カヤック）
- ・ホタルイベントプログラム開発

活動空間形成プロジェクト

- ・森の中の仙人（乙川 CCRC プロジェクト）
- ・“田舎暮らしの邑” 構想・遊休農地の市民農園利用
- ・空き家再生（1ターン誘致、インバウンド等）
- ・林間パブリックフットパス（健康ウォーキング）

乙川リバーフロント地区との連携プロジェクト

- ・新木橋の床を皆で張替えよう！
 - ・人道橋上マルシェ等への上流側からの出店
 - ・上流域に関する情報提供（看板設置等）
- プロジェクトの総合的なプロモーション活動
- ・事業規格運営に係る人材の確保・育成

5. おわりに

乙川リバーフロント地区での人道橋の完成・お披露目がひとつの契機となり、より一層の地域活性化、流域ブランドの構築、観光産業都市・岡崎の更なる発展にむけて、上下流連携（流域連携）および官民連携の深化・加速化が期待される。